

図1 連結DREを含むダイオキシン類応答性ベクターの作製法

表1 使用したダイオキシン類応答性ベクター

DREの数	ベクター名	挿入配列の向き <sup>1)</sup>
4	pGL7.1F (1-1)	⇨(正方向)
	pGL7.1R (1-2)	⇧(逆方向)
8	pGL7.2F (10-11)	⇨⇨
	pGL7.2R (1-21)	⇧⇧
12	pGL7.3F (14-8)	⇨⇨⇨
	pGL7.3R (15-12)	⇧⇧⇧
16	pGL7.4F (14-4)	⇨⇨⇨⇨
	pGL7.2R (16-6)	⇧⇧⇧⇧
20	pGL7.5F (3-18)	⇨⇨⇨⇨⇨

1) 1つの挿入配列に4つのDREを含んでいる。

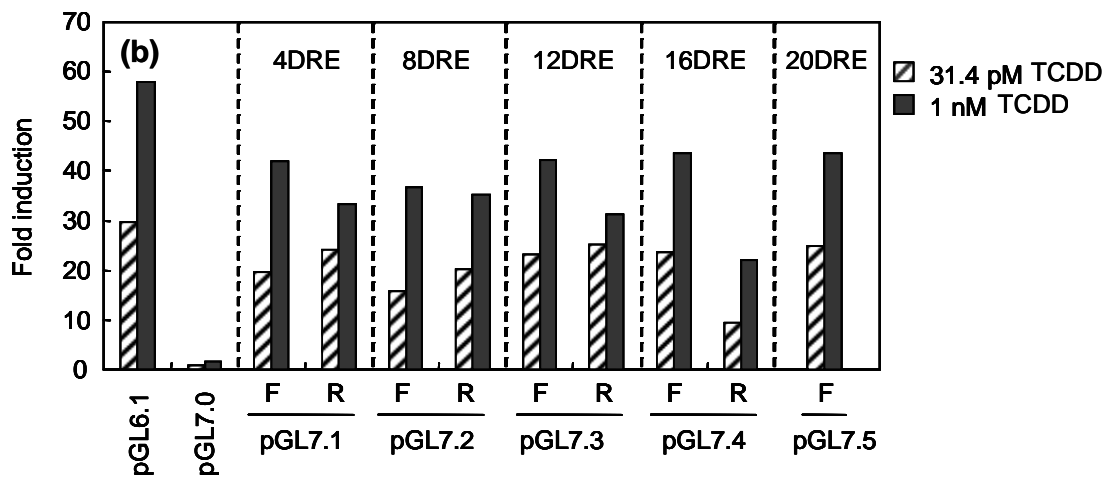
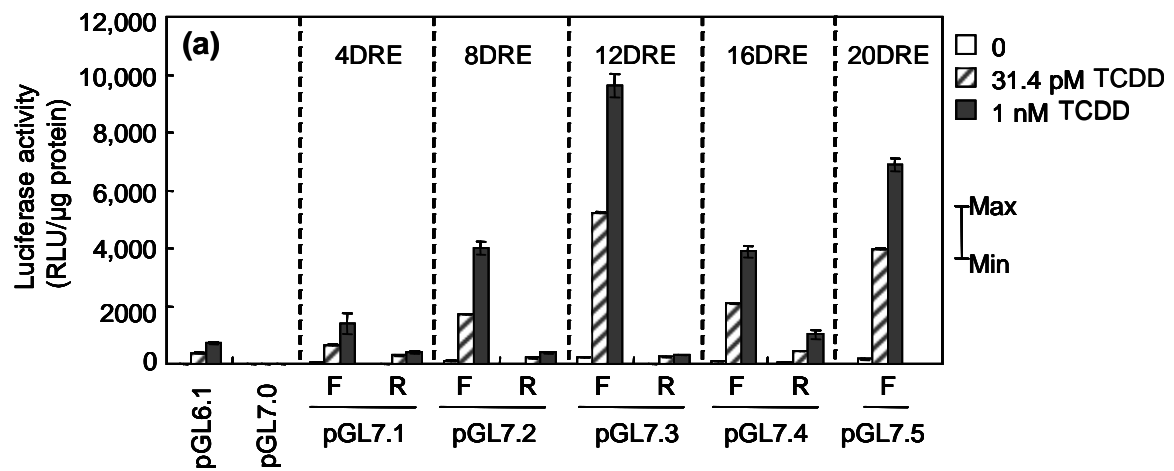
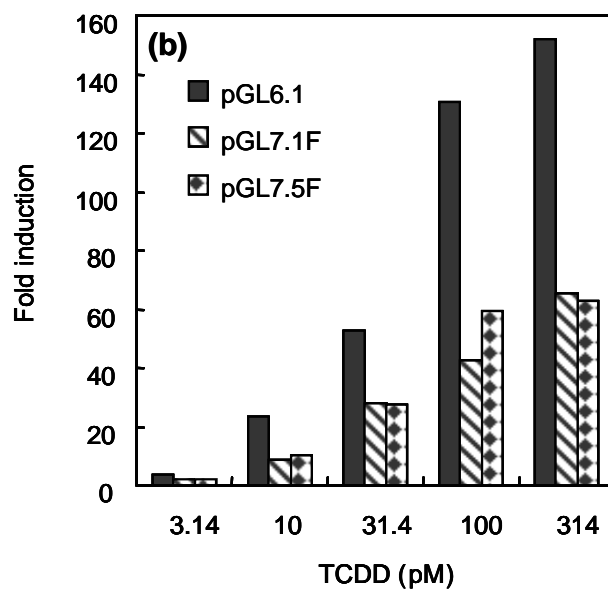
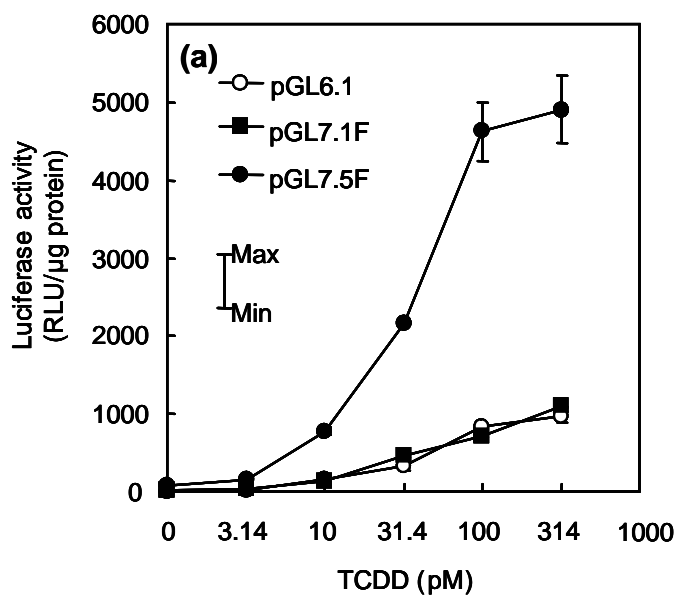


図2 連結DREを含むレポーターベクターのダイオキシン類応答性  
 ベクター名のFは正方向に、Rは逆方向に連結したDREを含む  
 (a) ルシフェラーゼ活性  
 (b) ルシフェラーゼ活性倍率(各濃度における活性/ブランクにおける活性)



**図3 TCDD用量反応曲線**

ベクター名のFは正方向に、Rは逆方向に連結したDREを含む

(a) ルシフェラーゼ活性

(b) ルシフェラーゼ活性倍率(各濃度における活性/ブランクにおける活性)